

技術評価報告書

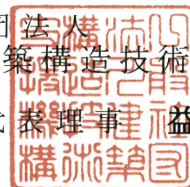
申込者： 合同製鐵株式会社 代表取締役社長 明賀 孝仁
大阪市北区堂島浜二丁目 2 番 8 号 東洋紡ビル 8 階

技術名称： EG 定着板工法 RC 構造設計指針(2019 年)

当法人「建築構造技術審議委員会」において慎重審議の結果、2019 年 9 月 25 日付けの技術評価書(SABTEC 評価 12-05R3)の通り、一般社団法人建築構造技術支援機構「建築構造技術検証要綱」で定めた技術基準と照らし合わせ、本技術は妥当なものであると判断されたことを報告する。

2019 年 9 月 25 日

一般社団法人
建築構造技術支援機構
代表理事 益 尾 潔



建築構造技術審議委員会

委員長	窪田 敏行	近畿大学	名誉教授
副委員長	田 才 晃	横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院	教授
委 員	岸 本 一 蔵	近畿大学建築学部建築学科	教授
"	田 中 剛	神戸大学大学院工学研究科	教授
"	勅使川原正臣	名古屋大学大学院環境学研究科	教授
"	三 谷 勲	神戸大学	名誉教授

機械式定着工法 RC 構造設計指針(2019 年)

専門部会

主 査	田 才 晃	横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院	教授
委 員	窪田敏行	近畿大学	名誉教授



技術評価書

申込者：合同製鐵株式会社 代表取締役社長 明賀 孝仁
大阪市北区堂島浜二丁目 2 番 8 号 東洋紡ビル 8 階

技術名称：EG 定着板工法 RC 構造設計指針(2019 年)

技術概要： 本工法は、GBRC 性能証明 第 01-13 号(2001 年 11 月 6 日)、改(2003 年 1 月 14 日)、改 2(2007 年 7 月 3 日)取得以降、多数の使用実績を有し、SABTEC 評価 12-05(2013 年 3 月 21 日)は、GBRC 指針(2010 年)に準拠した EG 定着板工法 設計指針(2013 年)について行われ、同設計指針では、柱 RC 梁 S 混合構造、柱 SRC 梁 S 混合構造の柱主筋定着部を適用範囲に追加している。

SABTEC 評価 12-05R1(2015 年 12 月 4 日)は、高強度 RC 柱梁接合部編および柱主筋外定着方式編を適用範囲に追加した「設計指針(2015 年)」について行われ、SABTEC 評価 12-05R2(2017 年 4 月 25 日)は、RCS 混合構造設計指針が別途作成されたことより、RC 構造を適用対象とした「RC 構造設計指針(2017 年)」について行われている。

また、SABTEC 技術評価 12-02R3(2019 年 9 月 25 日)は、2017 年以降における使用実績の増加を踏まえて改定した設計規定を盛り込んだ「RC 構造設計指針(2019 年)」について行われている。

本委員会は、一般社団法人建築構造技術支援機構「建築構造技術検証要綱」で定めた技術基準と照らし合わせ、下記の通り、本技術は妥当なものであると判断した。

2019 年 9 月 25 日

一般社団法人
建築構造技術支援機構
建築構造技術審議委員会
委員長 窪田 敏 行

記

評価方法： 申込者提出の下記資料によって、技術評価を行った。

EG 定着板工法 RC 構造設計指針(2019 年)および実験説明資料

この資料には、本技術の目標性能達成の妥当性を確認した技術資料がまとめられている。この資料のほかに、EG 定着板標準製造要領書、EG 定着板施工要領書および専門部会資料が提出されている。

評価内容： 申込者提案の EG 定着板は、鉄筋母材の規格引張強さに相当する荷重を受けても損傷せず、本工法設計指針によって設計される EG 定着板を用いた異形鉄筋定着部は、設計で保証すべき長期荷重時、短期荷重時および終局耐力時の要求性能を満足すると判断される。